

ピアノ個人指導における対面レッスン，オンラインレッスン それぞれの利点，これからの活用について —コロナ禍におけるピアノ個人実技指導の実態—

Regarding Piano Lessons, Each of the Advantages and Making Use of Face-to-face and Online Piano Lessons
—The Actual Situation of the Individual Piano Lessons in the Corona Wreck—

川内 奈保子*
KAWAUCHI Naoko

要 旨

今年のコロナ禍により大学の授業において、状況ごとに適切な方法で講義を行う必要に迫られた。対面での授業を行うことができない期間は、どのように講義を行うべきかを試行錯誤することになった。筆者の担当する授業、ピアノの個人指導が含まれる教科「初等音楽」では、学生が大学に来ることができない期間にはオンラインレッスンを実施した。全15回の授業の形態について報告する。またオンラインレッスンと対面レッスンの両方を経験した学生にアンケートをとり、回答結果からそれぞれの利点を見出し、これから起こりうる次の困難な状況においての活用について考えた。

Abstract

We have needed to give lectures in appropriate way depending on the situation in the coronavirus wreck this year. During the period in the case we could not have face-to-face lectures, we have been on trial and error in thinking about how to provide the lectures. In one of the class I teach, "Elementary Music" includes private piano lessons, we needed to have online lessons during students were not be able to come to the university. We report the all 15 lectures set. We surveyed students who had experienced both online and face-to-face lessons. Consideration was made from the answer results, and we have thought more about how to use them in the next difficult situations we might have in the future.

キーワード：オンラインレッスン 対面レッスン 遠隔授業 ピアノ個人指導 ピアノレッスン
keywords: online lessons, face-to-face lessons, remote lectures, piano lessons

I. はじめに

2020年3月13日に成立した新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく措置の一つとして、緊急事態宣言が出され（4月7日）、対象地域では外出の自粛とともに感染防止のため様々な対策を取らざるを得なくなった。大学の講義に関しても、4月の入学式はもちろん、年度初めよりしばらくの間、対面授業を行うことができず、今まで経験したことのない苦勞を学生もまた教員側も負うことになった。最初はレポート課題で凌ごうとするも、この新型コロナの影響も長期化することが明確になり、ほとんどの授業でオンラインによる遠隔授業が行われるようになっていった。

筆者の担当する「初等音楽」では講義の大半はピアノの実技指導に充てられる。講義の内の数コマは音楽の理論やピアノの伴奏法（コードによる伴奏技術の基礎知識）について説明し練習問題を演習する授業で、遠隔の

オンライン授業でも行うことは可能であり、テクニカルなハードルさえ越えれば容易にリモートで講義を行うことはできた。しかし、柱とする実技レッスンをどのように行っていくかを即座に検討し行うことは「やってみないとわからない」未知の領域であった。オンラインレッスンを多数の学生相手に行わなければいけない状況に至り、早急にレッスン形態を模索し、すべての受講生に対して平等に個人レッスンの時間を設ける環境を整えていった。

新型コロナの影響が出る前にも楽器のオンラインレッスンは徐々に巷の音楽教室等で行われてはいたが、楽器の実技レッスンをオンラインで行うことの利点はまだまだ周知はされておらず、インターネット環境の整備やカメラやマイクの設定等の技術サポートがない限り、一般的に敷居の高い指導方法として認識され、まだまだ様子見をされていた個人レッスン受講形態であった。

本研究では2020年4月から7月までの大和大学前期の講義で、筆者の行った「初等音楽」でのオンラインレッスンの計画、実施の記録、学生の受講の実態、学生への意識調査をもとに、オンラインによる音楽のレッスンの利点や、それとともに対面のレッスンの利点を比較、考察する。

II. 研究の目的

現時点（2020年10月初旬）では遠隔授業を継続する大学もあるが、多くの大学で対面授業が再開されている。これ以後も感染症等により、思いもよらぬ事態が起こる可能性を踏まえ、オンラインレッスン、対面レッスンのどちらにおいても学生にとって不利益が出ないように講義を行うにはどのように対応をしていくべきなのか、引き続き検討が必要である。筆者から見た学生の様子、学生に行った意識調査による考察から、今後の講義において更なる効果が期待できる点、改善すべき点を見出し、発展させていくことを目的とする。また、イレギュラーな授業形態時にも指導の本質的な部分の欠如がないように、本来の個人ピアノ指導の在り方についても文献により研究を行い、再確認する。

III. 授業の計画と実施の記録、考察

表1 2020年4月～7月、本学初等幼児教育専攻1回生履修「初等音楽」前期の講義 全15回の授業内容

第1回	アーカイブ動画視聴（音楽理論の基礎）、課題
第2回	アーカイブ動画視聴（コードについて）、課題
第3回	GoogleMeetを用いた双方向オンライン授業:ガイダンス、自己紹介、音楽に関するアンケート等
第4回	オンライン接続による個人練習、希望者を中心に遠隔で実技のアドバイス。説明動画配信。
第5回	オンライン接続による個人練習、希望者を中心に遠隔で実技のアドバイス。説明動画配信。
第6回	オンライン個人レッスン開始、15人、個人練習
第7回	オンライン個人レッスン15人、個人練習
第8回	中間実技試験No.1（オンライン）15人、受験者以外はオンライン接続による個人練習
第9回	中間実技試験No.2（オンライン）15人、受験者以外はオンライン接続による個人練習
第10回	対面レッスン開始、引き続き希望者は自宅での個人練習（オンライン接続あり）
第11回	対面レッスン（10人）、希望者は自宅での個人練習（オンライン接続あり）
第12回	対面レッスン（10人）、希望者は自宅での個人練習（オンライン接続あり）
第13回	対面レッスン（10人）、希望者は自宅での個人練習（オンライン接続あり）
第14回	対面レッスン（10人）、希望者は自宅での個人練習（オンライン接続あり）
第15回	期末実技試験、各自演奏動画を提出

大学で設定された受講方式：緊急事態宣言が出されていた期間とその後の大学側の対応方法により、4～5月

は遠隔での授業が主体、6月からは徐々に段階を経てではあるが対面授業も行うこととなった。授業形式も受講形態の変化に応じ、その都度新しい試みを加えていった。

1) 授業の記録

1回生の全体でのオリエンテーション時にあらかじめ履修学生にGoogleClassroomの登録のためのコードを配布。授業の事務的な連絡を行い、課題を以後GoogleClassroomで管理した。以下の記録は15回の講義の内容、詳細は受け持ち4クラス（123名）のうちの1クラスD組30名のものである。

【第1回 4月6日】

対面授業の実施が困難と判断され、急遽、自宅で行う課題等での対応となる。音楽理論の基礎を説明したYoutube限定公開による自宅学習用動画を作成、配信。リアルタイム配信ではなく、アーカイブ動画。録画内容は通常の授業時と同様のものである。

- “2020年前期初等音楽_第1回_音楽の基礎知識_前半”
- “2020年前期初等音楽_第1回_音楽の基礎知識_後半”

図1 Youtube動画サムネイル



【第2回 4月13日】

第1回と同じく自宅学習用動画配信。課題を各自取り組む。

- “2020年前期初等音楽_第2回_音楽理論—コードの基礎1/3（3分割その①）”
- “2020年前期初等音楽_第2回_音楽理論—コードの基礎1/3（3分割その②）”
- “2020年前期初等音楽_第2回_音楽理論—コードの基礎1/3（3分割その③）”

図2 Youtube動画のスクリーンショット



【第3回 4月20日】

Google Meetによるオンライン授業実施。他の講義も通して、初めてのオンライン授業となる学生が多く、接続方法等の指示や、講義内容の説明等に時間を要する。学生ひとりひとりのカメラをONにする練習のため、自己紹介を行う。個人ピアノ技能向上のための参考動画（模範演奏）を作成、配信。

- 歌唱共通教材1. うみ 標準伴奏
- 歌唱共通教材1:うみ 簡易伴奏
- 歌唱共通教材1. うみ 簡易伴奏よりさらにシンプルな伴奏

図3 動画のサムネイル



【第4回 4月27日】

オンラインによる授業の受講方法、授業の流れ等を説明した動画を授業時間に配信。自宅からオンラインレッスンを受ける方法を説明し学生の不安が無いように、本格的なオンラインレッスン開始に向けて準備を整える。

- 初等音楽 授業の流れについて (4月27日現在)

図4 動画のサムネイル



【第5回 5月11日】

音符チェック・ミニテスト①Google Formを使用した小テストを実施。個人練習風景が映るように学生は自宅でカメラを設置。授業の練習時間に定められた時間内はカメラをオンにしておくことを課する。教員は学生の練習風景を常に監視し、管理ができる。

図5 授業風景GoogleMeetスクリーンショット



図5のようにタイル状に映し出される学生たちの練習の様子を観察し、必要に応じて学生は教員を呼び出すことが可能であり、質問することができる。

授業の最後の部分ではこの日以降毎回、Google Documentで作成した振り返りシートにその日の習得した曲目について記録させる。模範演奏動画配信。(Google Meetの録画機能を使用し、録画、ドライブに保存されたurlを配信。)

- かたつむり標準&簡易伴奏
- 日のまる標準&簡易伴奏
- ひらいたひらいた標準&簡易伴奏

図6 動画のサムネイル



【第6回 5月18日】

Google Formによる音符チェック・ミニテスト②実施。この回からオンラインによる個人レッスンを開始。

学生への連絡事項

以下のような流れで授業を行った。

- *****
- 本日からの授業の流れ～
- 5分前から随時GoogleMeet入室、
- ・Classroom出欠の質問シートに答える。(出欠確認、授業開始後15分までに)
- ・音符チェックミニテストを各々の都合の良いタイミングで授業内に行う。
- ・各自個人練習スタート、自分を映すカメラ動画はONのままお願いします。

- ・本日から、Meetのレッスン専用urlにおいて個人アドバイスの時間を設定します。
- ・14：30各自練習を終了し、振り返りシート記入開始（レッスンを重なっている人はそのあとに）
- ・14：35再集合 事務連絡後、授業終了となります。
【注意！レッスン以外の人でも通常のMeetで動画は常時ONをお願いします。】
設定された時間になったら、前の人レッスン中でも待機してください。
レッスン専用↓↓↓（全員が集まるMeetのルームとは別に設定）
<https://meet.google.com/□□□□>

□□□ □□□ 13:15 (□は学籍番号・名前)
 □□□ □□□ 13:20
 □□□ □□□ 13:25
 □□□ □□□ 13:30～（15人分記載、以下割愛。）
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（このように5分刻みでクラスの人数の半数15人の個人レッスンを実施。）初心者の学生から質問があった項目について説明動画を配信。

●うみファに#がつく理由

図7 動画のスクリーンショット



【第7回 5月25日】

Google Formによる音符チェック・ミニテスト③実施。授業は第6回と同じ流れ。
 個人レッスンは前回、受講できなかった学生15名（クラスの半数）。

6月8日から奇数偶数番号に分かれての対面授業開始。そのため、授業形態に変化。奇数番号、偶数番号による人数を制限した入校で密になるのを避けたが、大学にて受講可能な学生も希望により自宅での受講も許可された。

【第8回 6月8日】

中間実技試験（ピアノ演奏課題）第1回。

学生への事前連絡事項

以下のような流れで実技試験をオンラインで行った。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 中間実技試験スケジュールの変更について

大学から対面授業の再開についてお知らせがあった通り、奇数、偶数番号に分かれての対面授業が6月8日から始まります。

当初、学籍番号の前半、後半で日程を分けていましたが、上記を踏まえて、変更させていただきます。

中間実技試験は練習し慣れた自宅での受験とします。

・6月8日（月）は自宅で遠隔授業受講予定の偶数番号の人の試験を行います。

【自宅でオンライン・ピアノ実技試験です。】

奇数番号の人は大学の音楽室の個人レッスン室（指定教室にて）で各自個人練習を行ってまいります。

・6月15日（月）は自宅で遠隔授業受講予定の奇数番号の人の試験を行います。

【自宅でオンライン・ピアノ実技試験です。】

偶数番号の人は大学の音楽室の個人レッスン室（指定教室にて）で各自個人練習です。今、現在、実家から遠隔授業を受けていて、大学の対面授業スタートを機にこちらに来る人で住む場所に鍵盤楽器がないなどで指定日に試験が受けられない場合は個別にスケジュールを調整します（学校で実技試験を受けていただきます）。早めに知らせてください。

6月8日の授業予定

偶数番号：オンライン中間実技試験

奇数番号：講義棟2階の音楽室に隣接する個人レッスン室で個人練習。奇数番号でも登校しない場合は自宅で前回までと同じように個人練習を行ってください。奇数番号の人の個人レッスン室：レッスン室割り当て（見取り図は音楽室前に掲示しておきます。）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

大学の個人レッスン室内のピアノ仕様に関する、ピアノの使用後のケアに関する動画を作成、配信。

●レッスン室使用後のピアノのケアについて

図8 動画のサムネイル



学生への事前連絡事項

感染予防の観点から次のような注意喚起も行いながら、授業を運営した。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

注意：感染予防、濃厚接触を避ける意味で～

・入室前に洗面所で石鹸を使い手洗い、入口前で消毒してから入室。

・絶対に個人レッスン室に割り当てられた人以外は立ち入

らないこと。

- ・割り当てられた部屋以外には入らないこと。
- ・2名以上で絶対に入らないこと。
- ・レッスン室内は飲食禁止です。

A17: □□□□□□*□には学籍番号・名前

A18: □□□□□□ (15名分掲載。以下割愛。)

自宅受講の場合

授業の5分前からGoogleMeetのルームに随時入室、Classroom出欠の質問シートに答える。(出欠確認、授業開始後15分までに、Meetのチャットにも学籍番号と名前を入力する。)

- ・音符チェックミニテストは行いません。
- ・全員、試験ではない人も各自個人練習スタート、動画は常時ONのままをお願いします。
- ・Meetのレッスン専用urlにおいて試験をします。
- ・14:30再集合 各自練習を終了し、振り返りシート記入開始(試験が重なっている人は 終わり次第)事務連絡後、授業終了となります。試験は基本的に弾くのは1回ですが、間違いが多かったり不本意だと感じたら、時間内であれば引き直しはOKにします。また、時間切れの場合は曲の途中で終了させていただきま。緊張しすぎず、力を抜いて頑張りましょう。設定された時間になったら、前の人が試験中でもルームに入室、待機してください。

【注意! レッスンを受けていない人は通常のMeetの動画を常時オンにしておいてください。】

実技試験専用↓↓↓

<https://meet.google.com/□□□□□□>

偶数番号(試験時間)

□□□□□□ 13:15

□□□□□□ 13:20

□□□□□□ 13:25

(15名分記載。以下割愛。)

【第9回 6月15日】

第8回と同じく中間実技試験の第2回目

奇数番号: オンライン中間実技試験

偶数番号: 講義棟2階の音楽室に隣接する個人レッスン室で個人練習。偶数番号でも登校しない場合は自宅前回までと同じように個人練習をすることも可とする。

【第10回 6月22日】

奇数、偶数での制限がなくなり、希望者は大学での対面受講が可能となる。

学生への事前連絡事項

大学での対面受講者、自宅受講者
それぞれに対しこのような指示で受講させた。

6月22日の予定

事前(明日の朝までに返答してください。)調査で、大学での受講人数を確定したところで個人レッスン室の割り当て調整を行います。

自宅受講者: オンラインでMeet授業に参加、自宅で個人練習。(教員は常に練習風景をPCに映し出し、練習している様子を確認。)

大学での受講者: 講義棟2階の音楽室に隣接する個人レッスン室で個人練習。レッスン室の割り当ては各レッスン室廊下隣接の入り口に掲示します。

注意: 感染予防、濃厚接触を避ける意味で~

- ・絶対に個人レッスン室に割り当てられた人以外は立ち入らないこと。
- ・割り当てられた部屋以外には入らないこと。
- ・2名以上で絶対に入らないこと。(ピアノ2台設置の部屋では1台は使用禁止。)
- ・レッスン室内は飲食禁止です。
- ・自宅受講の人用 授業の5分前から随時入室、Classroom出欠の質問シートに答える。大学に来てくれる人もお願いします。(出欠確認、授業開始後15分までに、Meetのチャットにも学籍番号と名前を入力する。)
- ・講義スタート、事務連絡後、各自個人練習スタート、動画は常時ONのままをお願いします。
- ・14:30再集合 各自練習を終了し、振り返りシート記入開始。【注意! Meetの動画を常時オンにしておいてください。】個人アドバイス・ミニレッスンの予定は未確定です。決まり次第、お知らせします。

大学での受講者が増えることが予想されます。個人レッスン室付近は密な状況が発生しやすいです。くれぐれも、個人レッスン室内に複数名入ったり、レッスン室隣接の通路でかたまっておしゃべりしたりはしないでください。今お知らせしている予定も変更の可能性がありますので、臨機応変に対応をお願いします。

この回より、大学の音楽室での対面でのレッスンを開始。音楽室のグランドピアノを用いて、5分+入れ替え2分の交代で10名のレッスンを行った。

入れ替えの際には感染予防と感染拡大防止のためレッスン用ピアノにおいては一人レッスンが終わるごとにウェットタオルでの水拭き、乾拭きを行い、ピアノ共有による感染拡大の防止に努めた。

模範演奏の動画配信

- 冬げしき_簡易伴奏弾き歌い_メロディ参考用
- 海の簡易伴奏左手のみ

図9 動画のサムネイル



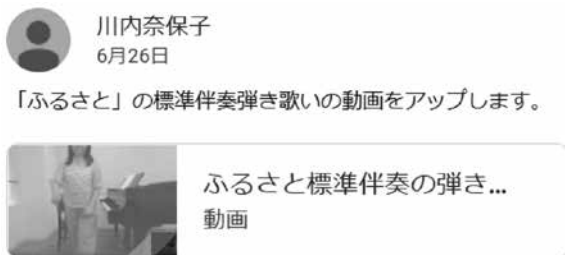
●冬げしき簡易伴奏の左手部分

図10 動画のサムネイル



●ふるさと標準伴奏の弾き歌い参考動画

図11 動画のサムネイル



【第11回 6月29日】

第10回と同じ流れ。

個人レッスンは音楽室にて対面で6分+入れ替え2分8人のレッスンを行った（前回よりアドバイス時間を拡大。）希望者は自宅でオンラインで授業に参加。

【第12回 7月6日】

【第13回 7月13日】

【第14回 7月20日】

第11回と同じ流れ。対面レッスンを音楽室で行った。希望者は自宅にてオンラインで参加可能とした。

【第15回 7月27日】

期末実技試験。同じ部屋で学生が連続して同じピアノを使うことに不安があるため、期末実技試験はそれぞれ自宅あるいは大学の個人レッスン室内で撮影した動画をクラスルームの課題ボックスに提出してもらうこととした。

2) 留意した点、学生の様子を見ての考察等。

- ・対面で授業外に会う機会が期待できないので、可能な限り早めに次の回の授業のタイムテーブル等は2, 3日前にはクラスルームを通じて連絡をするよう心がけた。それに対し何名かの学生に後から前もって予定を知らせてもらったのが大変助かったという声があった。
- ・オンラインレッスンでは演奏上、困っていることを聞き出し、自宅で一人で練習することに対して不安

が募らないように、学生一人一人の様子に留意した。

- ・対面レッスンでは、容易に想像はできることではあるが、オンラインレッスンでは伝わらない細かい指導が行えると実感があった。オンラインレッスンではたいていの場合は上半身しか映らない場合がほとんどで特に全身の姿勢についてのアドバイスが行えるようになった。ピアノの打鍵について、自宅受講の場合はキーボードで練習していた学生が多く、ピアノで弾いた場合に非常に小さい音でしか鳴らすことができなかった。音量についてのアドバイスが増えた。
- ・オンラインレッスンでは講義時間内にレッスン指導を行える学生の数は15名（クラスの半数）であり、対面でのレッスンの場合は入れ替え時間を要するために10名（クラスの1/3）までしか指導を行うことができなかった。
- ・対面レッスンではオンラインレッスンでは伝わりにくい細かい点まで指導は可能である。しかし、入れ替え時間がかかることはマイナスポイントであると捉えられる。
- ・オンラインレッスンでは練習中の学生の様子が即座に確認可能である。それに対し対面での場合は、教員は個人レッスンで音楽室から動くことができないため個人レッスン室に巡回に行くことができないため、練習の監視ができない。
- ・オンラインレッスンでは学生対教員のより限定された交流であるのに対し、対面の場合は、学生は練習中も他の学生との交流がある。ゆえに教員の目の行き届かないところで私語をしたりして時として、個人練習に集中しない学生もいた。
- ・指使いのアドバイスはオンラインではカメラの解像度や角度をしっかりと整備できない学生に関しては、かなり難しかった。対面だと何不自由なくアドバイスが可能となり、学生も対面でのレッスンに意味を感じている様子であった。
- ・オンラインレッスンの際に、兄弟姉妹、親御さんが聴いているときがあり、指導する側としては厳しく言い辛く感じる場面があった。また学生側も家族に遠慮しながら演奏を行っている様子も感じる場面があった。

3) 授業の実施を終えての考察、オンラインレッスン、対面レッスンのそれぞれの利点と考察

A. 授業を通しての全般的な考察

授業の第1回目からGoogle Classroomを導入することを決め、即座に課題の提示、収集等を行うことができたことは、そのあとの授業を円滑に運営する

ことに大きく役立った。

Googleの様々な機能、Google Form, Google Document, Google Meet, Google Drive等、連携できるからこそ得られた恩恵が様々な場面であった。Google Meetを使用の際にはルームをレッスン専用、全体ミーティング用と分けることが容易にでき、切り替えもスムーズにできた。対面授業では物理的な教室移動に時間を要してしまうところがクリック一つで行きたい部屋に行ける手軽さがあった。

遠隔授業で自分が映るようにカメラを設定し、練習風景を常に見える状態にしてもらったことで、学生は常時見られている緊張感を持ち、普段の練習方法ではなかったほどに、練習に集中して打ち込んでいたように思われる。学生側にとっては負担が大きくなったことになっただろうが、ピアノ技術の向上にはプラスになるポイントであった。

今回は急な遠隔授業の対応を学生に強いることになり、「初等音楽」ではピアノ技術の習得が目的の一つということを理解してもらったうえで、大きな混乱もなく、ほとんどの学生が自宅でキーボード、電子ピアノ、エレクトーン、ピアノ等の鍵盤楽器を準備することができたようであるが、これは偶然うまくいったといってもよい。本来は経済的な理由等で即座に準備は難しいものと考ええる。準備できないものも予測はしており、その場合はキーボードの貸与等も検討の範囲にあった。

B. 授業を通して見出したオンラインレッスンの利点、考察

オンラインレッスンの一番の利点はレッスン予定を円滑に時間通りに進めることができることである。学生は各自のレッスン時刻にオンライン上のルームに待機し、時間が来たら即座に弾き始めることができる。対面だと学生の入替え時間に最低でも2~3分かかる。大人数の学生のレッスンを行う際にはオンラインレッスンの方がより多くの人数を指導することができる。Google Meetの動画録画機能を用いれば学生の普段のレッスン風景も動画に残すことができた。学生の成長を確かめる上で時として録画してその姿を記録することは有益であり、その動画も即座にGoogle DriveのClassroomフォルダに自動的に保管され、管理も容易であった。課題の収集、採点、成績管理も非常に円滑に行うことができた。これは選ぶツールにもよるものだが、Googleの有料のサービス、G Suite以外にも魅力的な機能が備わったツールがあるはずなので、教員側も常に情報の収集に敏感になるべきであろう。

学生の遅刻、欠席が格段に普段の対面授業のときとは比べ物にならないくらいに少なくなった。これは後から学生の授業の感想にも出てくるが、通学時間がなくなり、着替えたりする手間も省くこともできるということは授業参加が手軽になる。出席数が不足により落第する生徒を減らすこともできる可能性がある。

質問に関しても、クリック一つで「先生、教えてください」とマイクをONにして呼びかけられれば、教員が答えられる。提出方法や、PC上の問題等もイレギュラーな状況ではあったが、学生はわからないことはすぐ聞くことができるという安心感が得られ、授業への不安が軽減されていたようである。

C. 授業を通して見出した対面レッスンの利点と考察

これは従来行っていた方法の、良さを再確認するという機会になった。第8回から徐々に対面授業を再開し、第10回から対面レッスンを行ったが、それまでの遠隔オンラインレッスンで利点を感じるとともに、オンラインではかなわないどうしても解決できない壁があり、対面でなければ伝わらない、細かいニュアンスを簡単に伝達できる対面レッスンの良さを再認識することとなった。オンラインレッスンでは体全体をカメラで映すことが難しく、姿勢の修正をすることはできなかった。強弱の付け方もオンラインだと音質もさほどよくなく、表現を深める指導が難しかった。指使いも指が映らないケースも多かったため、指導が行き届かなかったが対面では即座に解決できた。

対面でレッスン、授業を行うということは生身の人間を動かすということで、コミュニケーションの上では対面の方がより体力を使うと感じた。教員側も学生側も双方でエネルギーを費やすのは対面の方ではないだろうか（遠隔に技術的に慣れておらず、別の意味で精神的に負担を感じる場合を除いて）。そういう人間対人間の関りは、オンラインでネットを介してではなく、対面でリアルに対峙するほうが、より心の交流もでき、信頼関係の構築には対面の方が個人差もあるだろうが筆者にとっては好ましい。

対面授業の良さは、学生対教員の1:1のときのみならず、学生間の交流、助け合いも生まれた。学生はわからないことや、嬉しいこと、また困った事案などを周りの学生とともに共有共感して、学生間のつながりも深めていった。これはオンラインでは築けなかった。この点においては学生間のつながりを持たせることに意味を考えると、もし、また遠隔

授業を行わなければならない状況になった際には、オンライン授業でも学生間の交流を持たせる方法を準備する必要がある。対面授業、対面レッスンの良さというのはオンラインではできないとストレスを感じていたことを一瞬で解決できたときにより認識できた。

筆者が感じた対面レッスンのマイナスポイントは、この授業に関して限定事項であるが教員は音楽室において大人数の個人レッスンを分刻みで行う間、レッスン受講以外の学生は個人レッスン室で各自練習を行う。教員の目が届かないと分かった上で練習以外のことをして時間を過ごす怠惰な学生も一定数存在することである。これは教員1人ではレッスン室の監視まで同時に行うことができないので、学生の常識ある行動を期待するしかない点である。

IV. アンケートによる学生の意識調査の回答と考察

1. 質問内容とそれぞれの回答集計結果

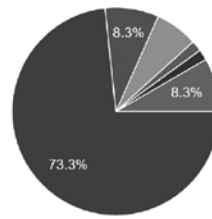
「初等音楽」履修生:本学教育学部初等幼児教育専攻1回生を対象にGoogle Formを用いたアンケートを実施（回答数120人、履修生全123人中）質問回答と意識調査を基にオンラインレッスンと対面でのレッスンの捉え方の違い、技術的にどれだけの成果が得られたのか、どちらも経験してきた彼らにとって、不自由に感じた点は何であったか、またこのような激しい変化の中でも何かを得たという達成感が得られたのかなどメンタル面においても問題がなかったかも考察する。

【初等音楽 最終回 履修最終日アンケート】
オンラインでのレッスン～対面レッスンと状況に応じてレッスンの形態を変えましたが、みなさんがそのことに対してどのように感じたかを調査させてください。

質問1

もともとのピアノの演奏技術（選択式 回答数120）

- 受講前は全くの初心者だった。 88名 73.3%
- 1年未満、習ったことがあり、両手で何らかの曲を弾くことはこの講義のスタート時にはできていた。 10名 8.3%
- バイエル終了程度。 8名 6.7%
- ツェルニー100番～ツェルニー40番終了程度。 2名 1.7%
- 上級者。 2名 1.7%
- その他 次の問いで具体的に書いてください。 10名 8.3%



- 受講前は全くの初心者だった。
- 1年未満、習ったことがあり、両手で何らかの曲を弾くことはこの講義のスタート時にはできていた。
- バイエル終了程度
- ツェルニー100番～ツェルニー40番終了程度
- 上級者
- その他 次の問いで具体的に書いてください

質問2

1の問いでその他の場合具体的に

回答

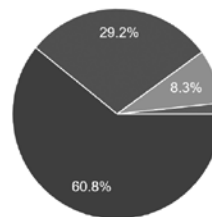
- ・小学生の時に二年ほど習っており、両手で何らかの曲は出来る程度。
- ・幼稚園の時に1年程度。
- ・ソナチネ。
- ・ピアノは幼いころに習っていたが両手ですぐ弾けるほど上手ではなかった。
- ・幼稚園年長から小学5年まで習っていた。
- ・どのレベルかはよくわからないのですが、小学校の6年間ピアノを習っていました。
- ・1年半ほど習っていたが、苦手でほとんど弾けなかった。 等

質問3

この講義のスタート時は歌唱教材の曲を何曲程度弾くことができましたか？（標準・簡易伴奏どちらでも）

（選択式 回答数120）

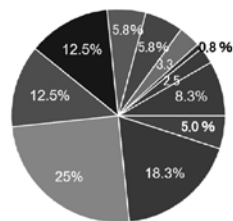
- 0曲 73名 60.8%
- 1～3曲 35名 29.2%
- 4～10曲 10名 8.3%
- それ以上 2名 1.7%



- 0曲
- 1～3曲
- 4～10曲
- それ以上

質問4

この講義を経て、最終的に弾けるようになった曲数は？
(簡易伴奏・標準伴奏問わず) (選択式 回答数120)



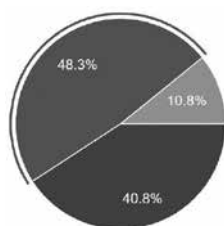
- 1曲
- 2曲
- 3曲
- 4曲
- 5曲
- 6曲
- 7曲
- 8曲
- 9曲
- 10曲
- 11曲以上

1曲	6名	5.0%
2曲	22名	18.3%
3曲	30名	25.0%
4曲	15名	12.5%
5曲	15名	12.5%
6曲	7名	5.8%
7曲	7名	5.8%
8曲	4名	3.3%
9曲	1名	0.8%
10曲	3名	2.5%
11曲以上	10名	8.3%

質問5

この講義を経て、あなたはどれくらい努力したと自己評価しますか？ (選択式 回答数120)

- かなり頑張った。 49名 40.8%
- そこそこ頑張った。 58名 48.3%
- 講義の時間帯は頑張った。 13名 10.8%
- 講義の時間帯もあまり集中して練習していなかった。 0名 0%
- 頑張らなかった。 0名 0%



- かなり頑張った。
- そこそこ頑張った。
- 講義の時間帯は頑張った。
- 講義の時間帯もあまり集中して練習していなかった。
- 頑張らなかった。

質問6

今年は新型コロナの影響で受講形態が途中で変わったりして、その都度、対応が難しかったと思いますが、そのことについて、思うことを何でも良いので書いてください。(記述式)

回答

- ・家で練習する習慣がついたので大変だったけど良かったと思う。
- ・家のピアノと学校のピアノが鍵盤の重さなどが違って

少しやり辛いところがありました。

- ・最初是对応が難しかったがなんとかできた。
- ・機械にあまり慣れていなかったのがオンラインがとても大変でした。
- ・自宅はキーボードなので学校で多くの時間練習したかった。
- ・少しでも学校でピアノ弾けてよかったです
- ・私自身学校よりも家の方が肩の力を抜いてすることが出来たので、練習など周りを気にせず出来てよかったです。
- ・家のキーボードだと強弱をつけることができなかつたため、難しかった。
- ・とくに困難はなかった！
- ・直接演奏を聞いてもらうことができなかつたことが、残念だと思いました。
- ・最初は大変でしたが、徐々に慣れていきました。
- ・学校は集中してピアノを弾ける環境があるのでよかったです。
- ・もっと学校のピアノで練習したかったです。
- ・仕方のないことだなと思います。
- ・そこそこ慣れました。
- ・遠隔でも対面でも、個人レッスンをしてもらったことがとても嬉しかったです。自分の弱点を見つかる良い機会でした。
- ・最初の方はオンラインで身が入らず出遅れた。
- ・遠隔での練習が難しかった。
- ・自分は特に困ったことはありませんでした。
- ・家にちゃんとしたピアノがなかったのが練習しにくかった。
- ・連絡を見逃すと取り返しのつかないことになった。
- ・それまでパソコンを使うことはなかったのが最初は苦労しましたが、試行錯誤しながら出来るようになっていったので、いい練習になったと思います。
- ・本来ならもっと早くから練習室を使って練習できていたのになと思います。
- ・個人レッスンの時間があまりなく、自学が多かったため自分の改善点がイマイチ見つけにくかった。
- ・学校に行くことが少し嫌になっていた。
- ・みんなに会えてよかった。
- ・登校したい。
- ・途中で対面を強制にしたことでまたさらにややこしくなった気がした。
- ・友達との教え合いが困難だったこと。
- ・分からないことが多く、メールで伝えるのが難しいこともあったので、少し大変でした。
- ・自粛期間中も授業をしてくださったのでありがたかったです。
- ・家で動画は部屋が家族が出入りする部屋だったので

来ないようにするのが大変でした。

- ・個人的にはオンラインでも対面でも対応できる環境にあったので、問題ありませんでした。
- ・分からないことも多く困ったこともあったが、分からないことに対して自分なりに調べてやってみたりする姿勢や、コンピューターに関するスキルが本来よりも身についた気がする。また、先生方が臨機応変に素早く対応されていたので、自分も頑張らないと、という気持ちになった。
- ・体育や音楽などの講義は、対面でこそ意味があると思いました。
- ・受講形態が変わることにに関しては特に問題なかったです。最初オンラインのGoogle meetに入るときは難しく大変でした。
- ・もっと学校でピアノを弾きたかったです。
- ・ピアノ初心者なので苦戦しました。
- ・少し残念でしたが自分の出来る限り頑張れたと思います。
- ・友達と一緒に個室で練習できなかったのが少し辛かったけど仕方ないことだと思った。
- ・早く対面で教えてもらいたいと思っていました。
- ・オンラインを上手く使えるようになったので、ある意味よかったと思います。
- ・ピアノを弾く時間はかなりとれた。
- ・特にありません！なんの不自由もなかったです。
- ・動画では分からないようなところまで指摘してくれたので、対面授業の方がいいです。
- ・先生が優しく指導してくださったので特に困ることもなく受講することができました。
- ・先生のサポートのお陰でとても良い学びになりました。
- ・やりにくかった。最初は画面にピアノを映しながら弾くのにも苦労した。
- ・困ることが多くあった
- ・遠隔での授業だったので先生に直接指導してもらうことが少なくなってしまうのは少し残念です。
- ・環境が変わってもやることは変わらなかったのに特に難しいことはなかった。しっかりとピアノの練習をすることが出来たので技術の上達に努めることが出来た。
- ・今のままでも仕方ないと思います。
- ・電子ピアノより学校でのピアノの方が弾きやすかった。
- ・イレギュラーな事態でも先生が色々考えてくれたなと感じました。
- ・対応に困らなかった。
- ・皆でピアノで弾き歌いをしたかったです。
- ・Wi-Fi環境が悪いと繋がるのに時間がかかったことが

あった。

- ・家のピアノと学校のもので感覚が変わるのが少し大変でした。私はスラーが苦手だったので電子ピアノでは難しく感じました。
- ・学校でやりたかったけど、家でも出来たので良かったです。
- ・臨機応変に対応する訓練ができて良かったと考えています。
- ・急に感染者数が増えていく中での対応はとても難しいものなのだろうなと思いました。ですが準備ができる程度には事前に知らせていただいているので特に困ることはありませんでした。
- ・ついていけました。
- ・学校で友達と一緒に取り組んだほうがやる気も出た。
- ・時々ある回線の不具合やラグで聞き取れないところがあって少し困った。
- ・対面で練習できるようになり環境に慣れつつあったが、またオンラインで練習となって感覚を取り戻すことが大変でした
- ・やはり自分で買った鍵盤とピアノでは鍵盤の重さが違ったりしてやりにくいところがありました。
- ・コロナ前に電子ピアノを購入していたので、練習自体には支障は無かったです。
- ・遠隔だと友達との教えあいができなかったのも、少し苦労した。
- ・最初の頃、大学のピアノで練習できなかったのが残念でした。
- ・自宅でもピアノの練習はある程度できた。
- ・早めにみんなと会うことが出来て良かった。
- ・先生がすごく頑張ってくれたと思う。
- ・コロナマジ許すまじ。初歩的なミスや技量の不足を厳しく咎めることなく様々なアドバイスをしてくださったことが純粋に嬉しかったです
- ・仕方のないことだが、対面授業でレッスンを受けたかった。
- ・授業が行えてよかったです。
- ・コロナの中で早めの遠隔授業が行われ、始めは慣れることに時間がかかりましたが今ではその対応に感謝しています。
- ・大変でしたが何とか乗り越えました。
- ・一回生でまだなにもわからない状態でのオンライン授業だったのですごく慣れてないことばかりで不安でした。
- ・すぐに対面に移行せずに、オンラインでも対面でもどちらでもよい期間が設けられていたので、ありがたかった。
- ・オンラインだったが、レッスンも受けられてよかった
- ・指番号がわからない場合、誰にも聞くことができな

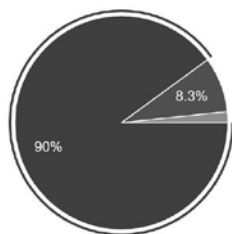
かったので困った。

- ・パソコン（Mac）でGoogle meetを繋ぐと途中で通信が切断されて使えなくなることに焦り、泣く泣くスマホに変えたが、ピアノの動画はスマホの方が撮りやすかった。しかし練習中の動画を撮る時はうまくスマホを置ける場所がなかった。テスト動画を撮る時は、「スマホくん、どうかバランスを崩して落ちないでくれ」と思いながらの撮影だった。
- ・先生が上手くやってくれたので 授業としてはとてもやりやすかったです。
- ・ピアノの練習なので、オンラインでも特に大変に思うことはなかった。
- ・家のキーボードで練習する時間が多く取れたので、かなり満足のいく練習はできたのかなと思います。しかし学校のピアノで弾くことが一番ですのでその機会が数回しかなかったことは残念です。

質問 7

オンラインでのレッスンについて（選択式 回答数120）

- オンラインレッスンは問題なく受講できた。
108名 90%
- オンラインレッスンはストレスがあった。
10名 8.3%
- その他 次の間で具体的に書いて下さい。
2名 1.7%



質問 8

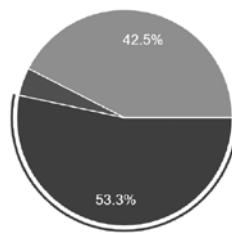
オンラインでのレッスンについて（記述式）

- ・ネット環境が悪く上手くいかないときもあった。
- ・ピアノがうまくうつらないときがありました。

質問 9

対面でのレッスンについて（選択式 回答数120）

- 対面レッスンになって、よりストレスが減った。
64名 53.3%
- 対面レッスンになって、よりストレスが増えた。
5名 4.2%
- オンラインも対面レッスンもそう変わりはない。
51名 42.5%

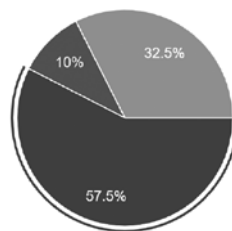


- 対面レッスンになって、よりストレスが減った。
- 対面レッスンになって、よりストレスが増えた。
- オンラインも対面レッスンもそう変わりはない。

質問10

もし自由に選択できるとしたら（選択式 回答数120）

- 対面レッスン 69名 57.5%
- オンラインレッスン 12名 10%
- どちらでも構わない 39名 32.5%



- 対面レッスン
- オンラインレッスン
- どちらでも構わない

質問11

オンラインレッスンの利点（記述式）

回答

- ・家から出なくていい。
- ・緊張しない。
- ・周りの音に邪魔されず、集中して行うことができる。
- ・各自で自由に弾ける。
- ・コロナ感染の危険が少なくなる。
- ・集中して取り組める。
- ・感染の危険が無い。
- ・リラックスして練習できる。
- ・移動時間がない。
- ・対面だと周りのピアノの音が聞こえてプレッシャーを感じて負担になることもあったが、オンラインは一人なので気楽に練習できる。
- ・練習時間が増える。
- ・朝が早くない。
- ・楽な服装でできる。
- ・対面レッスンよりも少し見てもらえる時間が長かった。感染のリスクがない。
- ・ピアノを弾くだけなので身だしなみの準備がいらなない。
- ・家からでもレッスンが受けられる。
- ・外に出ずに自宅でできる。
- ・ピアノのケアが必要ない。
- ・Wi-Fiとピアノがあれば、家のどこにいても受講できる点。

- ・自分のペースでできる。
- ・大学の通学時間を自由に使える。
- ・個人レッスンがやりやすい。
- ・慣れている環境で落ち着いて出来ること。
- ・サボらない。
- ・自分一人だから周りを気にしなくて良い。
- ・自分の家のキーボードが弾きやすい。
- ・集中出来る。
- ・声が出せる
- ・自由に休憩できること。
- ・個人レッスンに行きやすい。
- ・自分の部屋の落ち着いた空間の中で練習ができる。
- ・周りの環境に影響されず、自分のペースで練習できる。
- ・友達に聞かれるということを考えなくていい点。
- ・自由に弾ける。
- ・集合に遅れることがなかったこと。
- ・ひとりで黙々と練習できる。
- ・自分が弾きなれているので弾ける。
- ・弾かないとバレてしまうのでみんなきちんと弾く
- ・その場で先生に質問ができること。
- ・緊張せず普段の自分の演奏を弾くことができる。
- ・ピアノのケアの時間が省けるので練習時間が増える。
- ・みんなの弾いている様子を確認して、自分も頑張らないといけなく感じる。見られているので集中できる。
- ・しっかりと見てもらえる。
- ・対面より緊張しない。
- ・音を気にせず弾ける
- ・移動などの時間を削減することにより有効活用できる時間が増える。
- ・電車が遅延していても授業が最初から最後まで受講できる。
- ・忘れ物がない。
- ・集中してできる。新しい曲も次々と進めることができる。
- ・いつでも質問できる。
- ・移動がないため楽。交通費がかからない。
- ・自分の使い慣れたピアノで練習できるので、感覚の調整が不要。
- ・自分の慣れたピアノを使えること。
- ・自分1人の音だけを聴けるため集中力が増す。
- ・友達としゃべる時間がないので集中できる。
- ・みんな集中する。
- ・ずっと見られているという緊張感と周りの人に音が聞こえないということでリラックス出来る。
- ・自然体で受講できた。
- ・自分が疲れた時などに飲み物などを取りに行ける。
- ・自分のペースでできること 自分の弾く音が誰にも聞かれないこと。

- ・みんなが頑張っているピアノをしているのが見られるので自分も頑張ろうと思える。
- ・外に出る準備、通学時間が省けるので体力が消耗されていないまま授業を受けることができる。

質問12

対面レッスンの利点（記述式）

回答

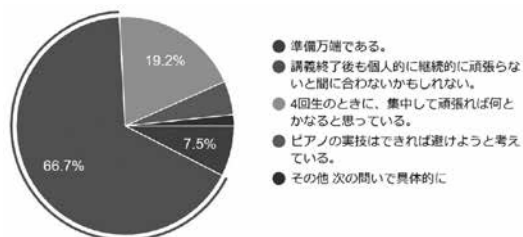
- ・ピアノで弾ける。
- ・先生に指導してもらえる。
- ・先生の直接のレッスンを受けることができる。
- ・授業、ピアノ練習により身が入る。
- ・自由に取り組める。
- ・先生のアドバイスを直接受けることができる。
- ・実際先生が隣でレッスンして下さる。
- ・こと細かいところまで伝わりやすい。
- ・周りのメンバーからアドバイスをもらえる。
- ・本物のピアノで演奏ができる点。対面の方がやる気が出る点。
- ・友達に聞ける。
- ・先生に質問することが出来る。
- ・全てにおいてオンラインより有能。
- ・ちゃんとしたピアノで弾けてやりやすいこと。
- ・ピアノの強弱の違いをつけやすいから。
- ・個室なのですごく集中できます。
- ・1人1つの本物のピアノで練習できるところがよかったです。
- ・近所の人に迷惑にならずに弾き歌いが出来る。しっかりとピアノで練習できる。分からないところがあったら、すぐに先生に聞きに行きやすい。
- ・個人レッスンが設けられている点。友達からアドバイスを貰える点。
- ・ピアノの鍵盤の重さがわかる。
- ・細やかな指導。
- ・元々あるべき姿。
- ・先生にしっかりと教えてもらえるのと、ピアノで練習できる。
- ・隣の部屋からの音が聞こえてやる気になる。
- ・周りに聞ける。
- ・キーボードではなくピアノで練習できる。
- ・集中力も持続し、ピアノにしっかりと向かえる。
- ・周りにピアノ以外がないため、より集中ができる。
- ・先生に近くで見えてもらえて、いろいろなアドバイスがもらえる。
- ・直接コミュニケーションがとりやすい。
- ・緊張感を味わうことができる。
- ・授業を受けているという実感が湧き、友達の演奏を見て学ぶこともあった。

- ・みんなで教え合える。
- ・友達の練習の音が聞こえると自分の進むスピードの遅さが分かって、もっと頑張ろうと思えました。
- ・直接先生に指導を受けることができるのでオンラインよりも集中力が途切れにくい。
- ・指遣いとかまでしっかりと見てもらえる。
- ・集中した空間であり、先生の個人レッスンを受けられたこと
- ・やる気が違う
- ・わからないところがあれば授業後にそのまま先生に聞ける。
- ・分からない所は気軽に聞くことができる。切磋琢磨しあえる。
- ・本物のピアノで鍵盤の重みを感じながら練習できる。本番に近い感覚で練習できる。
- ・実際にピアノを弾け、実際に話せるのでやりやすい。
- ・リアルなピアノに触れることが何より大きい。
- ・家族に迷惑が掛からない点。
- ・本物のピアノを引くことができてより教員採用試験に近い練習をすることができる
- ・周りの人の進度が分かりそれが刺激となること。

質問13

この講義を経て、4回生のときの教員採用試験の実技試験の準備ができたと感じますか（選択式 回答数120）

- 準備万端である。 9名 7.5%
- 講義終了後も個人的に頑張らないと間に合わないかもしれない。 80名 66.7%
- 4回生のときに、集中して頑張れば何とかかなと思っている。 23名 19.2%
- ピアノの実技はできれば避けようと考えている。 6名 5.0%
- その他 次の問いで具体的に。 2名 1.7%



質問14

質問13でその他の場合、具体的に（記述式）

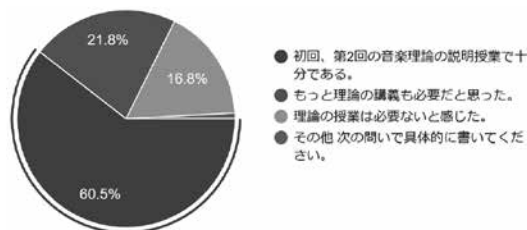
回答

- ・弾き歌いの練習をしていく必要がある。
- ・簡易伴奏なら少しずつやっていけばできると思います。

質問15

この講義はレッスン中心の演習タイプのものですが、もっと座学も必要だと思いましたか？（選択式 回答数119）

- 初回、第2回の音楽理論の説明授業で十分である。 72名 60.5%
- もっと理論の講義も必要だと思った。 26名 21.8%
- 理論の授業は必要ないと感じた。 20名 16.8%
- その他、次の問いで具体的に書いてください。 1名 0.8%



質問16

質問15でその他の場合、具体的に（記述式）

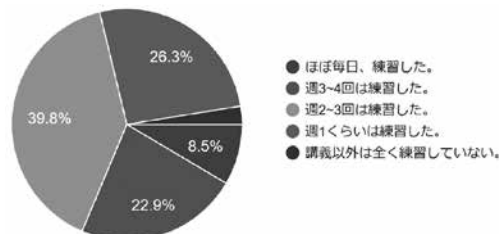
回答

- ・実技が多い方が良い。
- ・理論も必要だとは思いますが、レッスンの時間は多く設けていて下さってとても良かったです。
- ・音楽は知識よりも実践が大事だと思うから。

質問17

講義時間以外の個人練習は上達のために必須となるわけですが、講義以外にあなたはどれくらい練習していましたか？（選択式 回答数118）

- ほぼ毎日練習した。 10名 8.5%
- 週3~4回は練習した。 27名 22.9%
- 週2~3回は練習した。 47名 39.8%
- 週1くらいは練習した。 31名 26.3%
- 講義以外は全く練習していない。 3名 2.5%



質問18

この講義の改善点、要望等、あれば書いて欲しいです（率直に書いてもらって構いません。今後の貴重な改善のチャンスとなります。）（記述式）

回答

- ・人数的に難しいかもしれませんが、個人レッスンの時

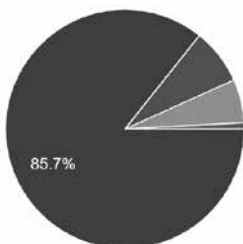
間を増やして欲しいです。

- 1時間半ずっと自主練は気が緩むこともあったから、班で聞き合ったり、アドバイスしあったりする時間もあればよいなと思った（今回はコロナで無理だが）。
- ずっと弾きっぱなしだったら飽きてしまって続かないので、間に何か挟むなどがあれば良いと思いました。
- とても良かったので、特にありません。
- 少し俗っぽい曲の楽譜があればいいと思います。
- 歌い方のコツみたいなのを、動画を通してなどでいいので知れたかったです。少人数だからこそその授業があればいいなと思いました。お互いネットで見合うなど。
- もう少し見てもらう時間がほしい
- 1回生のこの時期だけではなく、続けて講義の時間が欲しいです。
- この講義自体はとても良かったです。1年前期以外でも講義を用意して欲しいです。
- ピアノの練習をしていたら時間が分らなくなるので、レッスン室に時計が欲しいと思いました。
- 先生とのマンツーマンをもっと増やす
- 歌の練習をさせてほしかった。
- ピアノをうつさないといけないのが苦でした。ピアノがうまく写る角度を探すのが大変でした。
- 対面時、同じフロアにいる人達が集まって喋っていて集中して練習ができないため、もう少し見回りに来ていただきたいです
- 集合と解散の時間をもう少し短くする。
- 授業の時間の都合もありますが、もう少し個人レッスンの時間が欲しかったです。
- これから自分で練習していくのですが、分からないところなどがあると教えていただけるとありがたいです。

質問19

楽しいと感じたでしょうか？（選択式 回答数119）

- ピアノの練習は楽しく感じた。 102名 85.7%
- ピアノの練習はしんどくて、嫌だった。 9名 7.6%
- 単位習得のために、楽しいも嫌もなかった。 7名 5.9%
- その他 次の問いで具体的に書いてください。 1名 0.8%



- ピアノの練習は楽しく感じた。
- ピアノの練習はしんどくて、嫌だった。
- 単位修得のために、楽しいも嫌もなかった。
- その他 次の問いで具体的に書いてください。

質問20

質問19の質問でその他の場合、具体的に。

回答

- 1人で黙々としてることが好きなので全然平気でした。
- 上達してくると楽しかったけど、初めの方はしんどかった。

質問21

最後に感想等を書いてください。（記述式）

回答

- オンラインとの併用で大変だったが、ピアノが弾ける楽しさを知ることができてよかった。今後も採用試験のために継続的に頑張りたい。
- 今回の授業で自分は全くピアノが弾けなかったのに少し弾けるようになったため、とてもよかったです。また機会があればピアノを教えていただきたいと思いました。
- もっと頑張りたいです！
- オンラインがほとんどでしたが、個人レッスンの時間はとても有意義で、自分のピアノの実力向上につながりました。
- 初めてのピアノで、はじめは楽譜も読めなかったが、少しずつ成長を感じることができた。
- 自分自身、久しぶりにピアノを弾いて講義はとても楽しかった。学校での練習は少なかったが、自分の気づかない点を指摘してもらったり、隣の部屋の子が頑張っているから自分も頑張ろうと感じたり、充実して授業を過ごすことが出来た。これからもピアノの練習を続けていき、曲のレパートリーを増やして将来のために頑張っていこうと感じた。
- 全く弾けなかったピアノを少し弾けるようになって嬉しかったです。
- 心が折れることは何度もあったが、最後まで頑張ることが出来、自分の自信につながりました。
- こんなにピアノを触ったこと自体初めてで、できるのか不安だったけど、やっていくうちに楽しくなってきたし、何より少しでも弾ける曲が増えたことが嬉しかった。オンラインでも対面でも全然苦でなく、授業を受けることができた。
- 苦手意識がなくなってよかった！
- まだまだスムーズに弾ける曲が多くないので、今後も頑張りたいと思います。
- 最初は教科書に載っている曲を1曲も弾くことができませんでしたが、この授業を通して少しは弾けるようになりました！個人レッスンでのアドバイスを忘れず、今後も少しずつ練習を続けていこうと思います。
- きれいな曲ばかりで楽しかった、もう少し練習すれば良かったと思う。

- ・ピアノ初心者だったので不安でしたが、個人レッスンも丁寧に教えてくださり、楽しくピアノをすることができました。ありがとうございました。
- ・最初は全然ピアノを弾くことができなくて四苦八苦したけど、コツコツしっかり練習したことである程度のところまでは弾くことができるようになったと思う。継続して練習することの大切さを学ぶことができた。教科書に載っている曲以外に、自分が好きな曲も弾くことができるようになりたいと思うようになっていたので、ピアノが好きになったのだと思う。
- ・ピアノは最初楽譜も読めずにてこずった。全く上達しなかったのが苛立ちもありましたが最後にはできるようになったので嬉しいです。
- ・ピアノへの抵抗が少し減りました。
- ・初めから対面でできなくて残念でしたが、対面になってからは楽しく授業を受けることができました！
- ・ピアノを触る機会が減っていたので練習する機会ができて、よかったです。
- ・継続的にピアノを続けることが大切だとわかった。
- ・頑張って教員採用で使えるくらいは弾けるようになりたいと思う。電子ピアノを買おうと思った。
- ・4回生の時、またよろしくお願いします。
- ・オンライン授業が始まって、大学がどんなところなのかあまり理解できていませんでしたが、教員採用試験のことなど少しずつ見通しを立てられるようになってきたので、これからも自分のできることから頑張っていこうと思います。
- ・初めて真剣にピアノに取り組み、難しく挫折しそうにもなりましたが、楽しかったです。4回生でもできるように継続的に練習を続けていきたいと思います。
- ・ピアノが苦手だったけど、それでも頑張れたと思います。これからも頑張りたいと思います。
- ・1週間のうちに課題とかが多くて、ピアノに費やす時間が少なかったけど、ピアノ自体難しかったけど楽しかった。
- ・放課後なども時間を割いて指導して下さいありがとうございました。
- ・エンターテイナーがんばります。
- ・丁寧に教えていただき本当にありがとうございました！
- ・ピアノを今までひいたことが全くありませんでしたが、とても楽しく、少しずつでも上達できるように練習しようと思いました。ありがとうございました。
- ・90分間弾き続けるのは飽きが来るし、疲れるものがあった。
- ・これからも採用試験のために頑張りたいと思います。
- ・ピアノが弾けて楽しかったです。
- ・久しぶりにピアノに触れて、真剣に行ったので少し楽しかった部分もありました。
- ・最初は全く弾けませんでした、アドバイスの時間を設けてくれたりしたので、徐々に弾けるようになりました。ありがとうございました。
- ・大学のピアノ室はとても集中できる環境でとても良いと思いました。これからもピアノ頑張っていこうと思います。
- ・ピアノを触り始める前は、すごく難しいものだと感じていて不安に思っていたが、やってみると面白くて家でも暇つぶしに練習したりしていた。これからも採用試験のため！と思って練習するとしんどくなりそうなので、ピアノを楽しみながらたくさん練習して弾ける曲のレパートリーをどんどん増やしていきたいと思う。ご指導ありがとうございました。
- ・4月から始めたピアノでしたが、努力をすれば弾けるようになっていくのが楽しかったです。はじめは楽譜を読むのさえままならなかったけれど、今は数曲弾けるようになりました。この講義が終わっても、ピアノの練習は自主的にしていきたいと思います。
- ・個人レッスンでも詳しく教えてもらって、ピアノがすごく上達したように思います。採用試験できちんと弾けるようになるために、継続して練習していこうと思います。前期の間、ありがとうございました。
- ・最初は不安でしたが、とても楽しんで授業を受けることが出来ました。前期の間、ありがとうございました！
- ・ピアノ初心者にはハードな授業でした。
- ・多くの曲を弾くきっかけになりました。
- ・自主的に頑張ることが出来たので、継続していきたいです。
- ・多少弾けるようになって嬉しかったし、楽しかった。
- ・レッスン室でみんな遊んでいたのですごく嫌でした。
- ・キーボードとピアノでは全然違うことがわかりました。練習の重大さを実感しました。
- ・細かいところまで指導して下さったので、オンラインという形がほとんどでしたが、問題なく授業を受けることができました！
- ・いろいろな曲に挑戦できて、これを4回生になった時に忘れないように日々練習していきたいです。
- ・ピアノを続けたいと思いました。
- ・楽しくやりがいのある講義を受けることができました。今後も自分で練習して曲数を増やしていきます。
- ・初心者だったけど頑張れた。
- ・まだまだ練習が必要だけど、最初の全然できなかったところに比べれば沢山弾けるようになったので継続して4回生の時に余裕をもって試験に臨めるようにしたいです。
- ・今までピアノを弾く機会がなく、全くの初心者だった

- けどピアノの練習を始めてから弾けるようになったら楽しいだろうと思うようになり、練習に取り組むことが出来ました。
- この授業を通して、ピアノを触る機会が増え、ピアノを弾くことが楽しくなりました。今後もいろんな曲に挑戦できたらいいと思います。
 - 初めより、弾けるようになってうれしかった。
 - 最初は弾けない自分にイライラしたが、弾けた後の達成感と満足感は忘れられないと思った。授業が終わった後も練習を続けたい。
 - ピアノを弾くのは難しかったけど、できるようになると楽しく感じた。
 - 難しい標準伴奏になってくると手があまり大きくないことからオクターブの演奏が少し困難な面もありましたがなんとか形はできるようになったように思います。この授業が始まるまでピアノから遠ざかってしまっていたので、思い出しながらの練習は楽しく行えました。採用試験までに教科書にあるすべての標準伴奏が弾けるくらいになれるようこれからもピアノの練習を頑張りたいと思います。
 - 個人レッスンでのアドバイスなど、ありがとうございました。もっと練習をして、頑張ろうと思いました。
 - 音楽は楽しいので好きです。出来る限り対面での授業がやりやすいです。
 - ピアノの難しさを痛感した。弾けるようになった時の達成感を得る事をモチベーションに続けていきたい。
 - 自分は初心者で始めたのですが、先生ができないから怒るのではなく、初心者の人はこうすればいいよなど個々の上達具合に合わせて何をすればいいのかを示してくれたので、練習しやすかったです。
 - ピアノを弾けるようになっていくのが楽しかったです。
 - ピアノに取り組もうという気が起こりました。
 - これまで鍵盤ハーモニカも上手く弾くことができなかったのに、練習してみると意外と弾くことができるようになったのでうれしかったです。しかし、まだ2曲しか弾くことができないので、これからも練習してもっとレパートリーを増やして、うまくなっていきたいと思いました。
 - この機会がなければピアノに触ることもなかったと思うので、教員採用試験に向けてではありますがピアノの楽しさに気付き上達を実感できてよかったです。
 - 実際にピアノを弾けることは少なかったけど、これからも家で練習しようと思いました。
 - 最初はとても不安でしたが、オンライン授業でも個人レッスンの時間を設けていただいたり、お手本の動画を送って頂いたりとても心強く、楽しい授業でした。
 - 曲を弾けるまでの過程で正直何度も練習が嫌になったが、弾けるようになった時の何とも言えない達成感が心地よかった。これからは、「旅立ちの日に」などのような小学校でよく歌われる楽曲を練習する。
 - 人生でピアノをすることがないと思っていたのでこの貴重な機会を無駄にせず、実技試験などで活かせるようにこれからも頑張りたいです。
 - ピアノを弾きながら歌うことに不安がありましたが、練習していくうちにできるようになったので良かったです。
 - 練習すればするほど自分で上達が分かり、とても楽しかったです。もっとほかの曲も練習したいと思います。
 - ピアノが少し弾けるようになって嬉しかったです。
 - ピアノ以外のことも丁寧に教えて頂きありがとうございました。
 - 全く弾けませんでした。練習して一曲ごとに完成するのが嬉しかったです。まだまだ弾ける曲数が少ないので教員採用試験に向けて毎日コツコツ練習して頑張りたいです。
 - レッスン室のピアノの音色が妙に高かったのは気のせいなのか気がなるところです。
 - 目標や計画をたてることができよかったです。ありがとうございました。
 - 全く経験がなかったのではっきり言って最初は辛かったです。少しできるようになると楽しさを感じた。
 - はじめは音符も全く読めない中だったので一曲弾けたことがまだ簡易伴奏ですが信じられません。しかしスムーズに引くという段階には程遠く、歌いながらとなると難しさがさらに倍増して教採に向けての練習はまだまだ必要だと改めて痛感しました。そして数少ない対面授業の中、レッスン等を受けたとき私の間違っているところを細かく指摘してくださりありがとうございました。
 - ピアノは初心者で難しかったですが、練習することで少しずつ上達出来たので嬉しかったです。
 - 初めてピアノに触れ、2曲弾けるようになってよかったです。
 - 久しぶりにピアノの練習をして、実力不足を感じました。対面での授業は環境がとても整っていて楽しく練習できました。
 - 先生も優しく、前まではピアノが全然弾けなかったのに今では何曲か弾けるので嬉しいです。教員採用試験までもっと弾けるようにしたいです。
 - 放課後ピアノの練習行こう！という気持ちによくなり、だんだん楽しくなった自分があるのでよかったです。できるようになったことへの喜びが大きくとても有意義な講義を受けられたと思う。

- ・興味のある曲を弾いてみたいと思った。
- ・今後も頑張ろうと思いました。

2. アンケート結果を受けての考察

アンケートの回答をみると、講義開始時にはピアノを習ったことのない学生(60.8%)はどの曲も弾くことができなかつたのが、講義終了時には歌唱共通教材を大半の学生が少なくとも3曲以上弾けるようになったということは、オンラインレッスンと対面レッスンとの併用でイレギュラーな状況の中でもそれなりの成果は得られたと確信した。

また、遠隔で授業を受けざるを得ない状況で、ピアノの個人練習を自宅で頑張ったと答えた学生がほとんどであったことは、この状況だからと捉えることもできる。外出できず、自宅学習を強いられた学生たちは、皮肉にも例年に比べ、個人練習により多くの時間を費やすことが可能だったのだ。困難を処理していく能力を培えたと感じている学生もあり、この先のまだ見えない情勢で授業形態が変わったとしても前向きに対応する力が備わっているということを期待する。

自宅のWi-Fi環境により、学生によってはネットの繋がりの悪さにかなりストレスを感じていたようだが、大部分の学生は問題なくPCのスキルも極端にできない者もおらずに、スムーズに受講ができたようである。Wi-Fiの接続の悪さから感じるストレスのほかに多く寄せられたのは、自宅の練習時の楽器(電子ピアノやキーボード)と大学に備わっているピアノの鍵盤の重さの違いに関してである。打鍵の感覚の違いに戸惑う学生がかなりおり、あらかじめ自宅練習用をする機材(鍵盤楽器)を購入する前に、ピアノとキーボード等の電子楽器が弾くのにあたって感覚の相違があることを周知してもらった必要性を感じた。これはコロナ禍の今年のみに関係することではなく通常時にも必要である。

オンラインレッスンの環境に慣れるのには大変だったと言う学生が多かったが、それらの困難も乗り越え、学生たちは満足感と達成感を感じていると確信する。また、この授業の大きな目標の一つ、ピアノの技術向上にも成果を感じていることは確かだ。

オンライン授業から対面レッスンに切り替わった時の状況を尋ねる項目も(質問9)対面ではもちろんストレスは減ったと感じた学生が多いのと同じに(53.3%)、オンラインも対面もそう変わらないと答えた学生が42.5%いたことは予想外であった。アンケートを通して、このコロナ禍の状況において、例年以上に個人練習に集中して取り組み、ストレスが感じられる状況でもあきらめることなく、ピアノの技術習得のため努力を惜しまなかつた彼らの姿勢を感じる取ることができた。

V. オンラインレッスン、対面レッスンの状況に応じた今後の活用について

1. ピアノ個人指導の本質の再確認

変化する情勢に対応していくことに振り回され、本来のピアノ指導の在り方について、どんな状況においても指導する側の教員が留意しなければならない点を再確認する。

数多くのピアノ指導者、ピアノを習う子供たちに大きな影響を与えた「バスティン・メソッド」で知られるジェームズ・バスティン(1934-2005)は次のように述べている。

教師という仕事は、人間である生徒を相手にするために、どうしたら生徒とのコミュニケーションをうまくやっていくことができるか、常に良い方法を探さなければならない。

教師が生徒とともにいるときは、できる限り生き生きと前向きな姿勢でいなければならない。もちろん人間であれば、元気な時もまたそうでない時も、エネルギーに満ち溢れている時もまた無気力を感じずるときも、楽天的な時もまた悲観的な時も、楽しい時もまた不快な時も、様々な状態があるのは当然である。しかし、一旦教師として生徒の前に立つならば、マイナスの感情は出来る限り排除しなければならない。¹⁾

今年のこのコロナ禍において、目まぐるしく変化する情勢に対応するために教員側は授業運営のための体制を整えることだけに気を取られてしまった時期もあったかもしれない。教員としての基本姿勢を再確認し、保っていくことが不可欠だ。様々な困難な状況下において冷静さを保ち、学生を導いていくには、PC機能やアプリケーション等の未知の仕様にも習得の意欲を持ち続け、ストレスを感じながらも前向きな姿勢を保つことが必要である。

2. 今後の活用について、今後の課題

オンラインレッスンと対面レッスン、どちらにも利点があることを確認できた。対面レッスンがどちらかと言えば本来の指導の姿であることは、学生は感じ取っていた。しかし、オンラインレッスンも対面レッスンのときには得られない有効性があるのも確かで、今後、ポストコロナにおいて、場合によってはうまく取り入れ、より良い授業、レッスン運営に役立てていきたい。

教育ICTコンサルタントとして、学校教育コンサルティングを行う為田裕行氏は、雑誌『先端教育』のインタビューで次のように述べている。

「学校のアップデートが必要 アップデートの中に当然デジタルは入ってくる。でも、デジタルが入ればすべてが解決するわけでもありません。全部オンラインでいいほど、学校は軽い場所ではありません。バランスを

取って残すべきところは残し、変わるべきところは変えていく必要があります。オンライン授業をこれだけ経験してきた子供も親も、もう、前の学校には戻れません。受ける側の思考がアップデートされてしまった以上、学校もアップデートしていかなければなりません²⁾

学生に行ったアンケート結果を見ても、対面の指導が行えない状況でも学生が得られる技術、習得の度合いは前年までの学生のものと同じまたはそれ以上であったと確信している。しかし、筆者が昨年度と比較して、今年度の履修生に対して危機感を感じたのが「受講学生との相互の信頼感の構築についての達成感の無さ」を感じたからであった。

昨年度と同じ講義「初等音楽」ではもちろん講義全15回はすべて対面授業であった。その時の受講生たちは現在でも廊下ですれ違ふと、ほとんどの学生が目を合わせて笑顔で挨拶をしてくれる。それに対し比較すると、今年度の履修生たちは、大学構内ですれ違っても目を合わさずに通り過ぎる者も多く、親近感が薄い。アンケート結果に反映されないソフトの部分での違いが存在する。インターネットを介しての指導というのは、対面指導と比べ、学生は学生側の技術や知識の享受については恐らく遜色がないと確信するも、教員と学生～人間対人間の心の繋がりを築く難しさがある。大学という学びの場として価値を考え直す必要もあるだろう。

対面授業であれ、オンライン授業であれ、充実した人間関係を築くことを目指し、ポストコロナも引き続き、移り行く授業形態に対応し続けなければならない。どんな状況下でも学生に不利益を与えぬよう、「残すべきところは残し、変わるべきところは変えていくこと」を良いバランスでコントロールしながら授業づくり、レッスンの環境づくりをしていくことが必要である。

引用文献

- 1) 効果的なピアノ指導法 ジェームズ・バスティン編 著 丸山太郎 訳 1993年4月発行 pp.3.pp.4.
- 2) 「リアル教育の価値と格差」(ポストコロナと学校アップデート) インタビュー 為田裕行氏, 「月間先端教育2020年7月号」 学校法人 先端教育機構 出版部2020年6月1日 pp.33

参考文献

- (1) 「授業レポート『Withコロナ』で見出す音楽授業の本質」授業者 平野次郎, レポート小島綾野, 「月間教育音楽/小学版2020年10月号」音楽之友社 2020年10月1日 pp.11~pp.14
- (2) 「対面力」をつくる! 齋藤 孝著 光文社新書

2013年6月発行
(3) 小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法
2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 2018
年3月発行